

編 集 後 記

いつも臨床神経学へ投稿をしてくださり、ありがとうございます。忙しい臨床業務や研究のなかで、論文を書かれることは大変な事だと思います。この編集後記を書くだけでも大変な私には、頭のさがる思いです。臨床神経はかなり長い症例報告を掲載している学会誌であります。症例報告というのは一見簡単そうに見えますが、実験や多数例での解析をする論文よりもはるかに難しいような気がします。たとえば世界で初の症例であったと思っても、それが世界初であることを確認するだけでも大変なことです。PubMed だけでは、それに出ていない過去の報告を調べきれないので、いろいろ本を読んだり、古い文献を読んだり大変な労力です。実際 PubMed に出てなくとも、classic な教科書にはあっさり書かれていることもあります。そして、症例報告の重要なことは、たった1例から何をメッセージとして伝えたいのかを明確にすることかと思えます。そのためにも、詳細な臨床情報・神経所見など患者さんが目に浮かぶような記載もお願いしたいと思えます。

ところで、臨床神経学を毎号通読されている方はどのくらいおられるのでしょうか。私は編集委員をしている関係で、全論文を拝見しております。やはり、査読をきちんと

受けて、推敲が重ねられた論文を読むことは勉強になります。投稿された先生方はご存知でしょうが、査読はかなり厳しいコメントの羅列であることも多々あります。でも、査読者の先生方は、より完成度の高い論文にしていこうという意気込みがあるのです。また、最近では、神経学会の中心であられる先生のすばらしい総説も多くなりました。直接お話を伺うなどできないような先生方の総説ですので、じっくりと読んで明日への臨床に役立ております。ところで、本誌への投稿に年齢制限はありません。欧米では年配の先生も論文を書かれますが、日本ではちょっと少ないかもしれません。最近自分で論文を書くことから遠ざかっているベテランの先生方、久しぶりに症例報告をお書きになりませんか。思い切って書き始めれば意外に筆が進むに違いありません。そして自分より若い(かもしれない)先生から受ける査読も刺激的かもしれません。若い先生やベテランの先生で、活気ある臨床神経学を作ろうではありませんか。

(高尾昌樹)

〈 編 集 委 員 〉

編集委員長 鈴木 則宏 編集副委員長 河村 満
 編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聡
 瀧山 嘉久 坪井 義夫 西野 一三 野村 恭一 星野 晴彦
 編集委員(幹事兼任) 園生 雅弘 高尾 昌樹

「臨床神経学」	第56巻 第11号	平成28年11月1日発行	
編 集 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		一般社団法人日本神経学会
発 行 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		高 橋 良 輔
印 刷 所	〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入		中西印刷株式会社

発 行 所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
 日 本 神 經 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>